

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人 胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホームめくもりの家		
所在地	奥州市胆沢区南都田字大持30番地 (電 話) 0197-46-5100		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(20年 7月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,200 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(0 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(平成20年 7月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.89 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国保まごころ病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

胆沢区の中心地の幹線沿いに位置し、周辺は田園地帯であるが、近隣には地区体育館、野球場、文化センター、消防署分署、スーパーマーケット等があり、一般住宅も多く、有事の際は協力いただける体制が整っている。このエリアは総合的な福祉施設が一団地を形成しており、同一法人が経営する特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービス施設の他、奥州市から指定管理を受けている健康増進施設、総合病院等とも廊下で連結されており、非常時などにはすぐに対応できる体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で特に改善点について、指摘を受ける事項はなかったが、内部で詳細に検討し部分的に改善を図った。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を踏まえて運営推進会議の委員の数を5名から7名(駐在所所長、近隣商店主)にし、より広く意見を求めることとした。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成20年度第1回運営推進会議では、今後の運営会議のあり方、事業計画を主議題とし、施設内の利用者の様子、今後の改善点などについて、話し合いが行われた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの相談や苦情は特に見受けられなかったが、意見があった場合は職員が対応しているほか、苦情があった場合は施設長まで話を通し、早急にこれに対応することとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 特徴的な取り組みとして、「里親制度」を設けている。これは近隣の児童を対象に、施設利用者の「孫」になってもらい、日常的に施設にきてもらっている。児童たちは利用者の孫としてだけでなく、施設内で遊んだり、宿題を行うなどしている。利用者にとっては施設は「家」であり、そこに子供がいる環境を作ることによって利用者の生活環境をより自宅に近い雰囲気作りを行っている。また、近隣の住民との交流も深く、有事のときは協力いただける体制ができている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎月1回、会議室で理事長による朝礼が行われており、全員で理念と基本方針を唱和している。これらは利用者のために職員自らがプロジェクトチームを立ち上げ、作成した原案を法人が採用したものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回職員会議を行い、理念を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近辺の小学校の生徒を「里孫」として登録し、日常的に子供が居る環境を作っており、小中学校の運動会、発表会等のイベントに参加枠を作ったうえで招待を受けている。また、近辺住民と防災等の協力体制ができており、実際に有事の際には自発的に駆けつけてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価と同じ内容で自己評価を行っており、結果を廊下に張り出して公表している。また、外部評価にある項目以外に、利用者に対しての日常的な対応や調理についても検討を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には近隣の駐在所所長や商店主に委員を依頼し、外部評価と自己評価の結果を報告して助言をもらうようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接する施設内に区の担当課があり、常に情報交換が可能な状況ができており、サービス内容に反映させている。その結果、介護度が回復し、自宅復帰できた例がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者から個々の家族へ写真付きで手紙を出している。また、5000円まで現金を預っており、収支は家族が来た時に確認してもらっている。お金が必要な場合は家族へお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、アンケート調査を行っているが、グループホームへの意見、苦情は寄せられていない。しかし、苦情等があった場合は施設長まで話を通し、全体で対応する体制をとっており、施設長自らが「(施設、サービスの質を上げるために) 苦情は宝だ」という認識がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動は行っていない。また、職員には勤務体制や手当での面での配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で毎月多数の職員研修会を実施しており、パート職員も交えて実施している。また、外部への研修会にも積極的に人員を派遣し、常に質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	パート職員を含め、県のグループホーム協会、ブロックの研修会等、外部の研修会に積極的に参加しており、これを通じての交流がある他、外部からの視察、見学も行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時には家族と一緒に施設内の見学を行っており、家族が訪問しやすい環境を作っている。また、家族の宿泊も可能である。利用者には施設に馴染みやすいように野菜づくりや習字等の趣味創作活動の支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から畑作業、家事など、様々な面で教えてもらえる場面があるが、利用者の女性は台所に立つと主婦としての自分を思い出している。また、食事介助が必要な方へ手伝いをしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者毎の好みややりたいこと等を把握しており、外出、趣味、創作活動に反映され、非常に協力的に生活している。介助が必要な方に利用者が手助けをしており、外出時など、基本的に全員で行動する団体意識がある。また、日常的に利用するものはかつて本人が使用したものを扱うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の行動をよく観察して確認し、家族に確認してもらっており、介護計画の作成に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に変化や問題が無い場合は継続しているが、最低、6ヶ月に1回は見直しを行っている。大きな変化があった場合は隣接する病院の医師や理学療法士から助言を受けて作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて、隣接する病院の利用が可能な体制ができています。この病院に診療科目がない場合は家族の協力をもらい、他の病院で受診してもらっている。また、この場合は家族に薬を受け取って来てもらっているが、状況に応じて職員が対応する場合もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に隣接する病院を利用しているが、対応できるのは内科、外科、整形、歯科、リハビリのみであるため、これ以外を希望する場合は状況に応じて対応しており、本人、家族の希望にも応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所以来、グループホームで終末期を迎えた方はいないが、今年から指針を作成し、家族への説明を済ませている。また、職員、医師等との連携が取れる体制を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に個人情報の取り扱いについて記載している他、入所時に「個人情報同意書」を取り交わしている。また、職員に対して研修会を行っており、情報の保護について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望は少ないが、飲酒、喫煙に対応している。また、夜間の入浴にも対応しており、本人の希望に沿う努力が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の食事の好みを把握している他、畑作業を行い、季節の野菜を作り、調理に利用している。また、買物を行い、食材を見ながら献立を変更している。購入した食材は品質管理が徹底されている他、施設内の主要な出入り口には手洗い、うがいのできる設備が用意されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日で入浴を行っており、夜間の入浴にも対応している。浴室は複数での入浴が可能であり、湯船に入るために踏み台が設けられ、椅子としても使用できる。また、湯船を浅くするための「すのこ」、滑り止め防止用のマットが用意されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に食事作り、掃除など、得意な仕事や趣味の活動ができるように支援を行っている。仕事は生活の一部となっており、自発的に行われている。また、趣味の活動は外部の方の指導を受けながら行う場合があり、この成果は廊下で展示されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の祭りで地域の方々との触れ合いが持たれている他、近隣の小学校の運動会の招待を受け、参加している。また、イベントを行い、施設の車を利用して買物や温泉等に出かけており、重度者にはリフト車を用意している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は午後9時に施錠しているが、日中は出入り自由となっている。外出行動のある利用者は職員が行動を把握しているため、ある程度は自由に外出が可能である。また、玄関にチャイムが鳴るセンサーを設置しているため、出入りがあった場合は直ぐに気付くようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、地域の方々と交えて施設全体で「総合防災訓練」を実施している。地域の方々とは協定書を結んでおり、地震の際、震度4以上となった場合は自発的に集合することになっている。最近発生した地震の際には実際に協力の申し出があった。また、夜間の訓練も実施されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量を毎回パソコンに入力して確認しており、詳細なデータを確認することができる。週に1回、管理栄養士に検食簿の確認を受け、食事内容について助言を貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が開設した際、地域の方々から柱時計、ミシンなど、昔の家具を寄付してもらい、施設内に配置しており、昔の雰囲気を感じることができる他、掘りごたつを設置し、最新の居住空間の中に懐かしさを感じるような配慮をしている。また、(喫煙所以外)施設内で火気を利用する場が無く、オール電化の設備となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や食器を持ち込み、自宅と同様の居室を作り出している。居室は通常の床だが、希望すれば畳を敷くことが可能となっている。なお、地震災害予防のため、家具は固定されている。		